

2018年度西宮市当初予算編成に対する申し入れ書を提出

市民の切実な願いをまとめ466項目

日本共産党西宮芦屋地区委員会と西宮市会議員団は、8月31日、市民と運動団体から寄せられた様々な要求を466項目にまとめ、来年度の「西宮市当初予算編成に対する申し入れ書」を市長に手渡し、各分野の予算要望の特徴について6人の議員がそれぞれ説明しました。

どんな要求を提起しているか、いくつか紹介します。

子どもの笑顔かがやく西宮を

- ・ 中学三年生までの子ども医療費無料制度の所得制限撤廃を。
- ・ 小中学校の35人学級を全学年へ。
- ・ 認可保育所の増設と認可外保育所の保護者負担の軽減を。
- ・ 子ども食堂の運営に支援を。
- ・ 給付制の奨学金創設を国や県に要求するとともに、市独自の制度創設と充実を。



高齢者にやさしい福祉のまちを

- ・ 高齢者のバス運賃半額助成制度（敬老パス）の創設を。
- ・ 高すぎる介護保険料を、市の一般財源を活用し下げること。
- ・ 介護利用料の減免制度を市独自で創設すること。



安心安全、快適な住環境を



- ・ 局地的豪雨が多発するもとの、土砂災害などの危険が高まっている。県とも連携をして必要な対策を講じること。避難所の増設など適正化を。
- ・ 住環境や景観、教育環境を破壊する無秩序な開発を規制する「まちづくり条例」の早期制定を。周辺住民の意思を反映する開発の仕組みを。
- ・ 市営住宅の住宅戸数削減計画を撤回し、市営住宅を増設すること。
- ・ 国道43号線の歩道橋にエレベーター設置を。
- ・ 民有地や遊休市有地等を活用して公園を増やすこと。
- ・ 学校の老朽設備（窓、天井、不具合な扉）の早期改修を。

入学準備金が小学生も中学生も来春から入学前支給へ

経済的困難を抱える児童や生徒の保護者にたいして、入学準備金等を支給する就学援助制度があります。しかし、入学後の7月に支給されるため、入学時に必要な制服や体操着など、さまざまな学用品を揃えることができず、子どもたちの心を深く傷つけていました。日本共産党は、国会でも市議会でも、入学準備金の支給は「必要な時期に必要な額を」と、繰り返しこの問題の改善を求めてきました。国が改善へと動き出し、西宮市では、来春の入学時から、小学生も、中学生も、ともに入学前に支給されることとなり、9月議会で補正予算案が提案されています。対象人数は、新小学生が506人、新中学生が593人。予算額では、新小中学生あわせて約2630万円です。